

KUIS GOODS

すべては始まった!

—ChallengeからMovementへ

「自らがチェンジメーカーとなるために」

もくじ

- 01 ゼミを振り籠に
- 02 花開く「くいすぐっず」
- 03 社会へ世界へつながる
- 04 チェンジメーカーをめざして

...page 3 ~

花開く
「くいすぐっず」
...page 9 ~

社会へ世界へ
つながる
...page 19 ~

チエンジメーカー
をめざして
...page 27 ~

「くいすぐっず」からすべては始まった!
—ChallengeからMovementへ—

企画・構成・デザイン 鈴木郁
造本・撮影・イラスト (和田ゼミ14期)

協働 和田純教授とゼミの仲間たち
協力 多くの学友たち

発行日 2015年5月

発行所 神田外語大学
和田ゼミ社会起業研究会
千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1
ホームページ <http://www.kuis.org/>



東

京湾に面した千葉市幕張。

その新都心にある神田外語大学では学生がすべてを
自主制作する大学グッズが販売されている。

ブランド名は「くいすぐっず」。

Kanda University of International Studiesの頭文字
KUISを冠したKUIS GOODSだ。

制作の母体は和田ゼミ社会起業研究会。

活動はもう、14年目にはいった。グッズの企画から
投資制作・宣伝・営業販売まですべてを学生が担う
例は珍しい。しかし、和田ゼミ社会起業研究会では
グッズ開発だけをめざしてきたわけではない。

むしろ、「くいすぐっず」をリソースとして学内・
学外で社会的な貢献をすることを本題としてきた。
コミュニティを活性化させて、協働を通じて新しい
価値を生み出すのが目標だ。

「くいすぐっず」の開発はビジネスマインドで
リソースの活用はノンプロフィットで…
その基本を心に刻んできた。

そして、密かにめざしてきたのは、自らがチェンジ
メーカーとなること。いつか自力で立ち上がり人々
と連携し、よりよい社会を実現する主体となること。

そうした和田ゼミ社会起業研究会の活動と想いを
この1冊に凝縮した。



01 ゼミを振り籠に

和田ゼミ社会起業研究会は
神田外語大学の和田ゼミを母体に
2003年に誕生した。

ゼミを振り籠に
世界の動きや社会との関わり方を学び
アイディアを育み、夢をみて
自分を拡げ、仲間と組む。

求めるものは Challenge と Movement
そして、常に Innovative であること！

振り籠「和田ゼミ」のレシピ

振り籠の和田ゼミでは常に新しい情報を取り入れ、社会変革と自己変革にむけてなにがイノベーティブなのか、1年間を通して考え続け、実践する。

そのレシピを公開すると・・・



20% 社会貢献と協働 社会に目を向け分かち合う

幕チャリ、STOP! AIDS、Table For Twoなどの学生活動で協働し地域との連帯や東日本大震災復興への協力、フェアトレードの導入、発展途上国での里親など活動はグローバルに。

38% 「くいすぐっす」の開発 他人に耳を傾け、自分を鍛える

企画から出資・デザイン・製作発注・宣伝・販売までおよそ8ヶ月の長丁場を学生だけで担う。「KUISの仲間に素敵なグッズを届けたい」その想いを原動力に延長戦はエンドレス。

42% 協働学習 世界に近づき人生を豊かに

社会起業家をめざして、アイディアを生み出す。本を読み議論し研究し、世界の政治・経済・文化についても最新状況をオンラインで学ぶ。

その他にも楽しい議論の延長戦

毎週ゼミ後のご飯会

毎回のゼミ後には、ワインを味わいご飯を食べながら人生をめぐる奥深い話を。

夏合宿・春合宿

3日間にわたって終日みっちり議論！
お酒も飲みながら最後はバーベキューで。

浜風祭初日にはOB・OG会

100人近いOB・OGが集り意見交換する貴重な時間！
先生の隣の席は争奪戦！



やがて揺り籠から挑戦が始まり、走り続ける。

2003年、揺り籠を超えて和田ゼミ社会起業研究会が生まれた。
Challenge を重ね、Movement を起こす母体だ。
歴史は自ら切り拓くものだ！ 走れ！



KUIS
コミュニティ
の活性化
2003

「くいすぐっず」
和田ゼミ起業研究会発足

新しい
チャリティ
の発想
2005

幕張チャリティ・フリーマーケットの立上げ協力
「幕チャリTシャツ」作製提供・広報・ボランティア参加
備品提供を通して、学生が自らの手で運営。

新規商品
の開発
2006

新商品「クラッチバッグ」
ぐっつの大革命。学生2000
人に対して1050個売れた。
ヒット商品の誕生。

効果的な
投資を学ぶ
2007

FAIR TRADE × KUIS
フェアトレードTシャツや
バッグの開発を始める。

和田ゼミ社会起業研究会
に改称

ケニアで学校建設
資金・文房具などを提供

STOP! AIDSあなたを守り隊
HIV / AIDSの予防と検査を呼び
かける学生啓発活動。

定番ぐっつの
登場
2009

大学のオープン
キャンパス記念品開発

バスチャン
(Basketball Championship+)
1ショット決まる度に選手10円、
観客10円、和田ゼミ20円を寄付
するバスケットボール大会。
寄付金はアフリカの子供達の給食
の提供に役立てられた。

KUIS Tシャツ定番化
KUISパーカーを新規開発

震災から
学ぶ
2011



2012

幕チャリにて宮城県石巻物産の応援買い
被災地の物産を販売するとともに被災地の復興
状況をパネルにまとめ、展示。

「くいすぐっず」10周年記念マウスパッドの寄贈

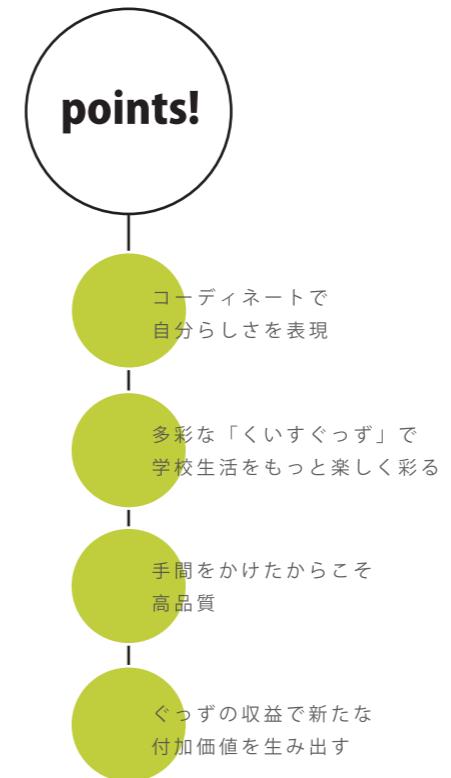
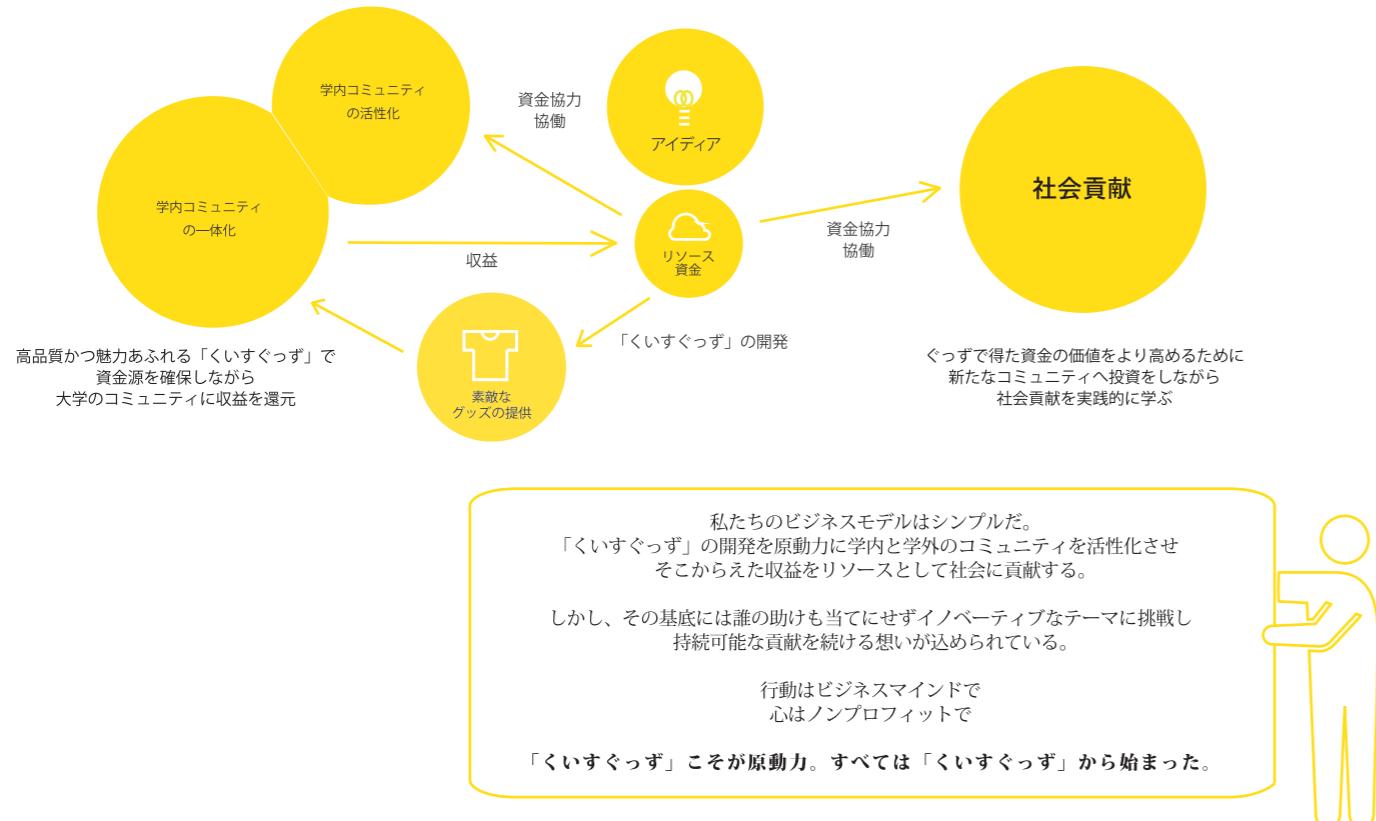
チャイルドスポンサーシップの開始
World Visionを通してバングラデシュでの
里親を開始。

2014

震災サバイバルプロジェクト

TABLE FOR TWOランチを
学食へ導入
学生団体「KUIS Team T-Lunch」との
共同プロジェクト。ヘルシーメニュー
を学内に提供すると同時に、その売り
上げの20円が途上国の子供たちの
給食になるプログラム運営を開始。

そして見えてきたのは和田ゼミ社会起業研究会のビジネスモデル



02 花開く「くいすぐっず」

「くいすぐっず」の開発は
社会の役に立ちたい
大学を活性化させたいという
想いがきっかけだった。

学生が自らデザインしたグッズを
欲しいとの想いもあった。

そして始まったのが
自己資金を投入しての試行錯誤
失敗して赤字となつたことも
ブランドの確立までに要した時間は実に長い。

しかし今や
「くいすぐっず」は多くの人々に愛され
一体感や楽しさを生み出すまでに育つた。

コーディネートで
自分らしさを表現



【KUIS T-SHIRT】
暖かい春にはさし色のピンクを。

【BAG & SPECIAL T-SHIRT】
たまには外で友達とランチ。

【SPECIAL T-SHIRT & BAG】
あえてKUIS感を出さないコーデ。

【KUIS T-SHIRT】
夏はビビットカラーで差をつけて。

【KUIS HOODY & TOWEL】
うんと体を動かしたい秋に。

【HOODY & BAG】
クリスマスもぐっずと一緒に。

【HOODY & FOLDER】
今年はどんなぐっずがあるかな。

【HOODY & LUNCH BAG】
好きな人と一緒にお揃いコーデ。

1年中身に付けて楽しめる「くいすぐっず」はどんな場面にもぴったり

多彩な「くいすぐっず」で
学校生活をもっと楽しく彩る



▼定番マグカップ(2007年)



▲7号館ふろしき(2010年)



▼まんじゅう(2010年)



▼カラフルなステッカー(2010年)



和田ゼミクリエーター自慢の作品 まだまだ他にも・・・

▼KUIS創立20周年記念クラッチバッグ(2007年) ▼ディスクユニオンともコラボ(2007年)



オランダ直輸入のUSB(2013年)▲



▼缶バッヂも定番(2013年)



▲本革ブックマーク(2012年)



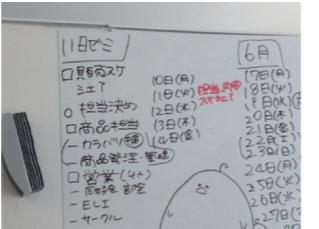
▲ブリティッシュヒルズともコラボ(2012年)





「くいすぐっず」は すべてを学生の力で

企画



こんなのがあったら便利!
こんなのがほしい!

出資



自ら出資してリスクを負い、納得のいく商品ラインを決定。
マーケットと対話し商品を選別する緊張のプロセス。

デザイン



センスが問われる…
時間と競い合い生みの苦しみに眠れない日が…

製作



チームを組み発注から検品までを管理。

サイズや色の組み合わせ
資金繰りなど、頭が痛い…

広報



独学で学び、すべてゼミ生がデザイン。
宣伝方法はバラエティ豊か。

▶2012年 4号館中吊り広告



▲2010年 丸善でぐっず販売



▲2014年 twitterで人気投票

手間をかけたからこそ
高品質

「くいすぐっず」は すべてを学生の力で

営業



まずは「くいすぐっず」を知ってもらう。
足を運び、直接手に取ってぐっずの良さを
知ってもらう営業活動はかかせない。

- 教職員
- 新入生
- 留学生

- ELI
- 部活
- サークル

販売



いよいよ皆さんの手元へ
資金管理や在庫管理も当然の任務だ。

資金活用



収益は「さらなる価値」を
生み出すリソースに
新商品の開発への再投資
社会貢献活動への還元など
新たな挑戦が始まる。

えええ...

新規開発には
失敗がつきもの
なぜ失敗したか分析し
それも次へ引き継ぐ。





ぐいっすの収益で新たな
付加価値を生み出す



「くいすぐっす」の開発は楽しく、難しい。
でも、それはゴールではなくスタートにすぎない。

高品質のものを安く提供する。
求められるのは徹底したビジネスマインドだ。

しかし心はノンプロフィットでもある。
収益は還元し社会に貢献もしたい。

「くいすぐっす」の共有から連携が始まり
新たな協働が始まる。

めざすは win-win な関係の展開！



「すきなようにやつたらいいじゃなーい？」
和田先生の口癖



「くいすぐっす」の開発は出発点だ。

そのリソースを活用し
Movementをおこし
社会貢献を目指してきた。

幕張チャリティ・フリーマーケットの誕生
STOP! AIDS キャンペーン
ケニアでの学校建設
フェアトレード製品の開発
TABLE FOR TWO の導入
震災サバイバルプロジェクトの開始

Movementの中から
新しい価値を生み出し
社会へ世界へつながる。

03 社会へ世界へつながる

KUIS TEAM T-LUNCH

おしゃれでヘルシー!
おいしい新しい支援のカタチ



夏野菜の肉みそ丼



豆腐ハンバーグ丼



秋刀魚・竜田揚げ
黒酢あんかけ丼

きっかけはTFT創立者の著書
『20円で世界をつなぐ仕事』
に感銘を受けたこと。

学食ではヘルシーランチを提供して
カロリーオフ。
同時に1食につき20円が寄付されて
発展途上国の子供たちは
給食でカロリーオン。

食の不均衡を同時に是正する
win-win のプログラムを
KUISにも導入した。

1食でも多くの給食を
発展途上国の子供たちに届けたい。

その想いは、
今もMovementとして続いている。



Table For Two
1つのテーブルから2つの「美味しい」が生まれる

<http://www.kuis.org/TFT/>



FAIR TRADE × KUIS

フェアトレードを身近なものに
その想いから
インドの村人と協働して
Tシャツやバッグの製作を始めた。

デザインを工夫し
手作りのものを
日本の人びとに直接届ける。

フェアトレードのコーヒーも飲みながら
Movementは新たな関心を呼び起す。



2008

2009

2012

2013



幕チャリでつなぐ、つながる

「幕チャリ」とは

「幕張チャリティ・フリーマーケット」の愛称。
神田外語大学の学生ボランティア団体が主催し、
大学・地域社会・企業の皆さんと協働して
2005年から大学キャンパスで開催してきた。

これまでの寄付額は1502万8799円。



イギリス発祥のチャリティ・リサイクルショップをモデルに

この3つの寄付をフリーマーケットで運動させ売上金を社会や世界のために役立てる。



寄付先にも実際に足を運び現場を知る。

公益信託の「アジア・コミュニティ・トラスト(ACT)」へ寄付したお金はアジア各地のNGOに助成され現地の人々の自立支援に活用されてきた。

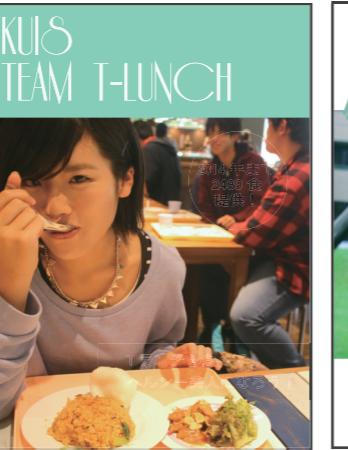
そして「寄付して終わり」ではなくその資金が活用されている「現場」へカンボジアへ実際に足を運ぶ。見えてくるのは世界とのつながり。海をこえて築くつながり。



楽しながら誰もが気軽にできる社会貢献



SOCIAL PROJECTS GALLERY



04 チェンジメーカーをめざして

社会貢献の場を増やそうと
「くいすぐっず」を核として
チェンジメーカーとなることを
めざしてきた。

アイディアを出し合い
新しいプロジェクトを
たちあげることは当たり前
失敗から多くを学んできた。

ステップは3つ
振り籠でアイディアを練り
Challenge を重ね
Movement をおこす。

そしてチェンジメーカーをめざす。

わたしたちからのメッセージ「チェンジメーカーになるために」

start

気づく

身の周りを見わたしてみる。
「あれ？」と思ったことを
書く・話す・盛りあがる。
「ちょっと、おもしろそうじゃない？」
「ねえ、やってみない？」

トライ & エラー
やってみる

とりあえずやってみる。
やりながら考えて
つっぱしる。

立ち止まる

息切れ前にちょっと一息。
時々うしろを振り返って確かめる。
「本当にこれでいいのかな？」
「どこへいくんだっけ？」
こうしたい！に想いをめぐらせて
さあ、もう一度進もう。

あ、これだ！

そう思えた瞬間から
わくわくしてくる。
私たちならできると信じて
最後までやってみよう。

広がる

「やってよかったな」
私もやりたい！が広がっていく。
またひとつ気づきが生まれ
次のムーブメントへ…
「ねえ、やってみない？」



誰でもチェンジメーカーになる。

小さなことでもいい。

なにか1つのことにチャレンジしてみると
秘められた大きな力に驚く。

さあ！今、走りだすときだ。

Dear
これからMovementをおこす君へ

